

保井 志之 D.C.

早いもので、私が米国アイオワ州のパーマー・カイロプラクティック大学を卒業してからほぼ20年の歳月が過ぎました。

まずは、私になぜカイロプラクティックを志したのかという

(1) 手技療法探求への第一歩

経緯から紹介させて頂きま
す。私は今から30年前に明治
鍼灸短期大学（現・明治国際
医療大学）を卒業して、東京



保井志之D.C.

の整骨院で勤務していまし
た。当時は私の周りでは、修
行して一人前になるのが当た
り前という風潮がありまし

た。私もその風潮に乗って、
所属していた短大柔道部の先
輩の勧めで、東京都内にある
整骨院に住み込み、修行しな
がら柔道整復師の専門学校で
の勉強を続けました。

住み込んでしばらく経つ
と、院長が斯界では一流の先
生であることが分かってきま
した。院長は「ほねつぎ」と

よばれていた時代から開業さ
れ、私が住み込みをしていた
頃には、多い時には一日の2
00人以上の患者さんが来院
する評判のいい整骨院でし
た。院長は治療院経営の傍ら
専門学校でも教鞭をとり、多
くの柔道整復師が集まる研究
会の会長でもありました。私

は同期の書生や先輩方と共に
整骨院での勤務に加えて、研
究会や専門学校での教材作り
のお手伝いもさせて頂きまし
た。

当時の整骨院は、本来の業
務である外傷による骨折、脱
臼、捻挫の患者さんが比較的
多く通院され、通院できない
外傷の患者さんには往診もし

ていました。特に日曜や祝日、
あるいは時間外に急患で来院
された急性外傷の患者さん達
の症例は強く印象に残ってい
ます。アメリカンフットボー
ルの選手が試合中に手関節を
脱臼し、ユニフォームのまま
来院されたこともありまし
た。そのほかにも、肘内障の
子供がよく診療時間外に来院
されてきました。

院長や先輩が鮮やかに治療
するのを目のあたりにして、
私はその整復術や芸術的な包
帯法に魅了されてきました。
そして、その手技療法を究め
てみたいと願うようになりま
した。ここでの修業時代は私
の治療家としての原点となり
ました。一流の感覚や一流の

追及の大切さを肌で学び、私
の手技療法探求への第一歩が
始まりました。振り返ると厳
しい修業時代ではありましたが、

保井 志之（やすい ゆきのぶ）プロフィール

1962年福岡県生まれ。明治鍼灸短期大学（現・明治国際医療大学）卒業、鍼灸師。東医学技術専門学校卒業、柔道整復師。米国アイオワ州のパーマ・カイロプラクティック大学卒業、ドクターオブカイロプラクティック（D.C.）。帰国後カイロプラクティックを開業し、治療に携わりながら、全国の治療家に向けて治療法のセミナーを開催、2001年AMI社公認アクティベータ・メソッドセミナー開催。2005年心身条件反射療法（ニューロパターンセラピー）研究会開催。2009年にはICC国際コーチ連盟認定コーチ養成トレーナーとなり、コーチ養成講座を開催。「健康」と「人の可能性」に貢献する治療家、ならびにコーチ養成トレーナーとして精力的に活動をしている。アクティベータ・メソッド・インターナショナル（AMI社）の日本地区ディレクター。

著書に『体の不調は脳がつくり、脳が治す』（2014年3月28日販売予定）翻訳・監訳書籍に『アクティベータ・メソッド・カイロプラクティック・テクニク第一版』（共訳代表）、『アクティベータ・メソッド第二版（監訳代表）』、『マトリックス・リパターン（監訳）』などがある。

が、治療の技術技能のみならず人間形成にとっても大切な

ことを学ばせて頂きました（次号に続く）